

部局名 農学部

担当：櫻井倫、明石良



テーマ 女子プロゴルフツアー「リコーカップ」への環境に配慮した木製観戦スタンド導入

宮崎県はスギ生産量が30年連続で日本一であり、国産スギの15%を占めている。この豊かな森林資源を活用し、2050年カーボンニュートラル達成に向けた産官学連携パートナーシップによるスポーツ業界における新たな取り組みを紹介する。

## 取り組みの概要

一般社団法人日本女子プロゴルフ協会（以下、JLPGA）は、ゴルフを通じたSDGs推進活動として、宮崎県、株式会社リコー、宮崎ゴルフ株式会社、耳川広域森林組合およびJLPGAによる、脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材利用促進に関する法律第15条第1項に基づいた5者協定を締結。その具体的な取り組みとして、従来のアルミ製観戦スタンドに代わり、宮崎県産スギ材100%使用による環境に配慮した木製観戦スタンドを2022年度リコーカップ開催地である宮崎カントリークラブの1番ホール、18番ホールと打撃練習場に大会期間中導入。

## 期待できる成果

今回の木製観戦スタンドで使用するスギの量は、約120m<sup>3</sup>（0.24m<sup>3</sup>/丸太）であり、およそ500本のスギを使用することになる。これは県産でのスギ生産量の0.013%にしか過ぎないが、木材利用による炭素貯留の観点から、年間で約18世帯分のCO<sub>2</sub>削減に相当する。このように、あらゆる場面での木材の使用頻度を高めることで、伐採・加工・**再造林**による資源循環型の林業生産が可能となり、森林吸収量の維持と木材利用による炭素貯蔵が実現できる。また、スポーツ観戦等における木材の利用は、座席の柔らかさや木のぬくもりを感じ、あたたかな空間を創出できる環境を整備します。

注釈：

木材は「炭素の貯蔵庫」であり、木造住宅は「都市の森林」と言われている。光合成で吸収した二酸化炭素は、炭素として取り込まれ、ブドウ糖となり、幹や枝、葉など樹体を形成され、また樹体内にも炭素が貯蔵される。さらに樹木が伐採されて、木材として使用されている間も炭素は貯蔵されたままとなる。

